

生年度別 小・中 英語教育 早見表

2014年度～2020年度あたりまで英語教育は改革期。
古い形の授業と改革後の授業を混合して受ける学年もあります。

	2003年度 生まれ	2004年度 生まれ	2005年度 生まれ	2006年度 生まれ	2007年度 生まれ	2008年度 生まれ	2009年度 生まれ	2010年度 生まれ	2011年度 生まれ	
NOW 2014年度	小学5年生	小学4年生	小学3年生	小学2年生	小学1年生	年長	年中	年少	入園前	NOW 2014年度
2015年度	小学6年生	小学5年生	小学4年生	小学3年生	小学2年生	小学1年生	年長	年中	年少	2015年度
2016年度	中学1年生	小学6年生	小学5年生	小学4年生	小学3年生	小学2年生	小学1年生	年長	年中	2016年度
2017年度	中学2年生	中学1年生	小学6年生	小学5年生	小学4年生	小学3年生	小学2年生	小学1年生	年長	2017年度
2018年度	中学3年生	中学2年生	中学1年生	小学6年生	小学5年生	小学4年生	小学3年生	小学2年生	小学1年生	2018年度

レベルアップした
授業がスタート

受験直前の中3から基本的に英語だけの授業を受けることになります。入試対策などとも重なり、英語の勉強が大きな負担になる可能性があります。

英語の学習内容が一気に難しくなるタイミングで、授業そのものが英語で行われるように。リスニング力やスピーキング力が求められてきます。

中学の主要科目として、英語の授業が本格的にスタート。同時に授業は英語で行うことが基本となります。英語の学力差が生まれやすいタイミングになります。

歌やゲームが中心の1年間の英語活動の後、教科としての英語がスタートする可能性があります。本格的な学習への移行期間が短く、学習に戸惑いが起こるかも。

英語に慣れ親しむ活動を経験せず、いきなり小5から読む教科として英語がスタート。英語のハードルが高くなることが予想されます。

外国語活動が早期化されてスタート。小4から週1～2コマでコミュニケーションの素地を養い、教科化へ移行します。

小3からコミュニケーション重視の外国語活動が始まり、2年間の活動を経て小5から成績のつく教科に移行します。

レベルアップした英語授業のスタートを前に、英語に関連した活動を早期から取り入れる学校も。地域によって差が出ることも予想されます。

英語授業の本格スタートを前に、英語活動の早期化や、外国への興味関心を高める活動が増えています。

レベルアップした
授業がスタート

❗ 従来型の授業を受ける期間が長いにも関わらず、高校・大学入試時には＜聞く、話す、対話する力＞が求められます。

❗ ほとんど英語の授業がなかったにも関わらず、2018年度からいきなり「教科化」した英語の授業が始まります。

❗ 2018年度からのレベルアップした英語の授業に備え、より早期から外国語活動が始まることと予測されます。